

さいたま市中央区下落合コミュニティーセンター 15:00 から 17:00

1. 自己紹介
2. 研究会への要望・年間計画
3. 役割分担（会計・場所取り・記録・その他）
4. 論文購読（『英語教育』質的研究の特集）
5. ビジュアルにわかる統計処理（t検定、分散分析、相関分析、重回帰分析、の基礎）
6. 次回提案者決定

【出された意見】

1. 実践研究論文と実践報告の違いはどこにあるのかがわからない。それ以前に実践研究論文の書式が定式化されていない。研究論文の下に実践研究論文が位置づくなど「格下」という受け止められ方をしている。
2. 効果の検証の検証を求められるが、リメディアル教育関連の論文ではその主張が難しい。
3. 質的研究のニーズが高まっているが、現時点では授業改善がメイン。学習者が授業評価を通じて自分がどのように参加すればよいのかを自覚する **Learner Development** の視点が弱いという印象を受ける。
4. 枠組の中での位置づけ
5. 授業がうまくいく授業者の場合、指導スキルだけでなくの裏側にある考え方にある種の「マジック」が存在するがそこを可視化し共有することが重要である。

【今後の課題】

1. 実践研究論文・実践報告の書式を研究会で提案する。
2. 「リメディアル教育関連の論文はなぜ（査読を）通過にくい」のかを考察する。論文の投稿をし、査読コメントの分析等も考える。
3. 質的研究の手法を学習するとともに、**Learner Development** を促進する感想の書かせ方や項目の策定を進める。
4. 指導スキルを支える「マジック」の可視化と共有を進める。

【その他】

- 会場をご提供いただける可能性があるとのことのお申し出を複数いただいた。
- 今後の研究会では質問紙作成の基本的な視点と分析方法について継続的に学習する。
- 参加費については、初回のみ 1,000 円、以降リメディアル教育学会会員は 500 円、会員外は一般 1,000 円（学生 500 円）をいただくことになった。
- 会計を望月先生（国際武道大学）にお願いすることになった。